

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	弊社全体の理念をもとに事業所理念を設定し職員会議の場で共有し実施している。また日頃から弊社の理念を社員が勤務時着用しているネームプレートに記載しいつでも見れるようにしている。	事業所理念は、毎年職員と相談して決められている。今年度は「価値観の統一」と決め、職員の経験年数、年齢によって、バラバラになりがちな個別ケアを同じようにできるよう心がけた。結果として入居者の様子は落ち着いてきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	継続して地域のお店での買い物や施設の利用を定期的に行っています。また地域行事に積極的に参加する事で地域の方と関わりを持てる機会を作るように心がけていますが、今年度は天候などにより行事の中止が多く例年より参加は少なくなっています。	今年度は、天候などにより地域の行事が中止となることが多かった。町会長が変わってから、地域の行事のお知らせのみではなく、中止になっても連絡がいただけるようになった。夏祭りに来ていただいた近所の方が遊びに来てくれたことがあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催の講習会や、運営推進会議などに地域住民や民生委員の方をお誘いし、まず認知症対応型共同生活介護という種類の施設をしていただく事からおこなっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行う中で、毎月の取り組みの報告や現在の状況をお伝えし参考にするために参加されている方に意見や考えをお聞きしています。また施設での事故内容などの報告も行っています。運営推進会議における地域との連携は昨年度と比べてあまり変化はありませんでした。	町会の新年会にて運営推進会議の案内が行われているが、町会からの参加数は少な目となっている。施設の状況報告、事故報告など行われている。	町会への運営推進会議のお知らせが不十分であり、出席率が低い。職員が足を運んでほしい。開催日の曜日や時間を固定化するなどの対策が必要と思われる。町会との連携を深めていくことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	金沢市主催のかがやき発信講座を定期的にご利用し、金沢市の担当課と定期的に連携をとるようにしています。また運営推進会議に金沢市介護保険課や地域包括の職員の方にも参加して頂きこちらの情報もそのさいにお伝えさせて頂いております。	こちらからは、待機数・事故・生活保護についての相談をしている。金沢市からは、入居者との面会を依頼されたりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しましては全職員で身体拘束をしないことを徹底して行っています。玄関の施錠に関しては防犯の観点から施錠させていただいていますが、出入りは行えるようになっております。また、徹底のためにマニュアルをもとに研修を定期的に行っており外部研修へも参加し質の維持向上に取り組んでいます。	研修は年に1~2回行われている。ミーティングでは、必ず、身体拘束につながるような事はなかったかと確認し、虐待身体拘束防止委員会にも意見を持ち寄り、職員間で情報を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルをもとに定期的に施設内研修を実施しております。また定期的に主催される地域にある病院や福祉施設での勉強会に参加し虐待についての知識を学んでいます。学んだないように会議時に職員間で共有し施設での虐待や自宅での虐待がないかを注意し防止しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルをもとに定期的に施設内研修を実施しております。また定期的に主催される地域にある病院や福祉施設での勉強会に参加し虐待についての知識を学んでいます。学んだないように会議時に職員間で共有し施設での虐待や自宅での虐待がないかを注意し防止しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に正確に契約等について説明し同意のサインを頂いております。また制度の変更や契約書の内容に変更があった場合は、その都度ご説明させていただき必要に応じて署名など頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者や家族様、職員等を対象に運営推進会議を開催し意見や要望がないかお聞きしています。意見や要望があった場合は速やかに検討させていただき対応を行っております。また入居者様へは日ごろから要望などないかお聞きしています。	ご家族には、年1回郵送にてアンケートが実施されている。また面会に来られた際にも意見・要望をお聞きしている。話すことができない入居者に関しては、昔の経歴やごちからの働きかけによって見られる表情などから思いを読みとっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を実施しており会議の場で職員を対象に提案や意見、要望がないかなど聞いております。上記に対し何かあれば速やかに検討しております。	月1回フロアミーティングを行い、全体でもミーティングが行われている。個人面談は年2回行われており、長く勤務してほしいという思いから、職員の要望は実現できるよう検討されている。職員の異動については、管理者とリーダー等で相談して決定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員を対象とし面談を実施しており個別に話しをする機会を作っています。また、仕事に対するやりがいを持って頂くため目標設定を行っています。目標の達成具合や状況、悩みや困った事がないかなど定期的に話しをし働きやすい環境作りに取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内で開催される研修や外部機関で行われる研修など定期的に参加の有無を職員に確認し知識や技術の向上に繋がる機会を作っています。また施設内研修も定期的に開催しております。その他でも常日ごろからわからない事がないか？等各職員に確認しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に地域にある病院や福祉施設で開催される研修会などの情報を共有し他事業所と交流できる場を伝えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される段階でまず不安な事や要望などお聞きし対応させて頂いております。また入居後も困った事や要望などがなければお聞きし不安な気持ちを取り除けるように支援を行っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どういった経緯でサービスのご利用を開始するかしっかりと家族様から傾聴し家族様が支援して欲しいと思っている事、入居者様が支援して欲しいと思っている事の双方をしっかりと把握し支援して行くようにしております。また入居者様に何か変化があった場合はもちろんですが普段から近況の様子をお伝えさせていただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居される段階でまず不安な事や要望などお聞きし対応させて頂いております。また入居後も困った事や要望などがなければ傾聴し不安な気持ちを取り除けるように支援を行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様個人の出来ることを見極め職員と共に取り組んでいただく事で、共に過ごしている時間を大切にしています。また家族のような関係で過ごしていただけることを目標としているため、何でも相談しあえる関係作りに取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なんでも職員が対応せずに家族様と共に取り組める事であれば家族様にもご協力いただき、家族様との関わりも継続していけるように支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在の本人様やご家族・ご友人の状態等様々な背景から支援ができていません。馴染みのある場所は職員の支援があれば行く事ができる入居者様は近場にかぎり定期的にいけるように継続して支援しております。	なじみの人や場所とのつながりは、徐々に減っていく傾向にある。入居されたばかりの方は、知人が来られたりこちらから訪ねるなどしているが、本人の意欲の低下や職員の支援する時間が取れないなどの理由から、関係が遠のいていく。もともと近所に住んでおられる方については、一緒に歩いていくなどの支援はできている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の会話の橋渡しを行い関係作りが行えるように支援しております。また他者と関わりを持つ機会作りのためにレクリエーションや行事、ドライブなど定期的に行い共に楽しみを共有できる機会を作っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在退去された入居者様の家族様や本人様とは必要に応じ相談や連絡など行える体制となっています。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様が支援して欲しいと思っている事をしっかりと把握し支援して行くようにしております。困難な場合でも出来るだけ本人様の思いにそのようなかたちで対応させて頂いております。難しい場合はしっかりと説明し納得して頂けるように取り組んでいます。	日々の会話から思いや意向を把握されている。行事は入居者に希望を聞いて決めることが多く、外食を希望されることが多い。同じ希望の方同士で動くことが多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なるべく本人様に過ごしやすい環境を作るために、生活歴や既往歴や本人様の思いをしっかりと傾聴しサービスに取り入れるように支援しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存機能を維持する事、本人本位の支援の提供をできる環境作りのために普段から心身の状態を把握し本人様にあった個別の支援を提供できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段から家族様や職員と話し合いが出来る場を作り要望や改善してほしいことがないかを話合っています。また現在ある課題をすこしずつでも改善できるように具体的に支援していく内容を検討し家族様との相談のうえで支援しております。チームケアの質向上のために計画書及びモニタリングをよりわかりやすく書式を変更し記載内容もより具体的にできるように家族様・職員・本人様より情報収集をしっかりと行い反映しております。	本人・ご家族にも要望を確認しながら、ミーティングで話し合せて計画が作成されている。目標期間に関わらず、入退院や区分変更、ご家族からのケアの要望により計画を変更、作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の普段の様子を把握し共有するためにケア等の記録を個別に記載し職員間で共有しております。また改善すべき点も共有し話し合いの場で検討しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設全体で様々な個別のニーズに対応できるように、まずしっかりと基本のサービスを取り決め基本のサービスを元に個別ケアを実施することとし、取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお店での買い物や施設の利用を定期的に行っています。また地域行事に積極的に参加する事で地域の方と関わりを持つ機会を作っています。本人の持てるかぎりの力を発揮するために本人様及び家族様希望のもと公共交通機関などをよういて自力で目的の場所に行き来し、それを継続する事業支援を実施しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様及び家族様が希望しているかかりつけ医を把握し希望にそった医療を提供できるように支援しております。また、状態に合わせてになりますが、毎回同じ医師の診察を受ける事で安心・信頼できるように医療機関と連携をとっております。	ほとんどの方が施設のかかりつけ医を利用されている。月に2回往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中は看護師が勤務しているため変化があった事は看護師へ相談しより適切な対応が出来るように連携しております。夜間は看護師がオンコール対応しており夜間に急な変化があっても対応できるように支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は速やかに入居者様の情報をお伝えし、適切な対応ができるように務めています。また入院後も医師・相談員・家族様と連携をとり早期に退院し施設に戻れるように連携をとっております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状態に変化が見られた場合家族様やかかりつけ医へすぐ報告しております。その上で医師の診断により終末期となった場合は、家族様と今後の対応について相談させていただき希望にそったかたちで支援をさせて頂いております。	入居時の希望で看取りはこちらでと言う方が多い。延命治療を希望される方は少ないため、病院へ移られる方は少ない。チームで情報を共有し、本人・ご家族の希望に添えるよう、できることを行うようにされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故が発生した場合はすぐ緊急対応ができるように普段から指導を行っております。また看護師や管理者にすぐに連絡がとれるようになっており、多人数で対応できるようにしております。急な事故等が起きても対処できるように全職員対象に救急救命の講習への参加や急変時の対応についてマニュアルをもとに研修を実施しております。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時の連絡網や対応マニュアルを分かりやすく簡潔に掲示・指導しております。また普段から施設内研修の実施や外部研修等に参加し急な変化に対応出来るようにしております。	マニュアルをもとに研修が行われている。マニュアルは毎年見直しが行われている。施設で起こる事故としては、転倒が多い。万が一、損害賠償が発生しても、賠償資力は確保されている。	事故防止のため、車のリフト使用時や車椅子使用時の注意事項など、定期的に確認していくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	定期的に協力関係機関と連絡をとり連携がとれる体制作りを行っています。また、近隣の病院や介護老人福祉施設からの相談も徐々に増えてきている。	定期的に協力関係機関と会議を行っており、こちらからは待機数などを知らせている。特養や老健からは、ご家族が自宅から近いところ、こじんまりとした認知症専門の施設を探している、と紹介されることが多い。こちらからは、退院後や金銭的な問題で介護福祉施設を希望される方がおられるため、ご家族の希望で法人以外の施設を紹介することもある。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜間は各フロアに職員を配置しています。また緊急対応が必要になった場合は他階から応援をする事とし看護師や医師、管理者等とすぐ連絡がとれ対応できるようにしております。	夜間は各階に1人ずつ介護職員が配置されている。緊急時はオンコールで看護師が対応をしている。必要があれば看護師から管理者や医師に連絡されるシステムとなっている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	普段から災害にたいする研修や非難訓練を定期的に行なっております。また災害が発生した場合の対応マニュアルも作成しております。 水害に関する避難訓練も実施しています。	水害訓練では、全員3階へあがってみた。車椅子以外の9割の方は階段で避難された。運営推進会議で地域との協力体制について協議はされている。またポスティングにて避難訓練の参加を呼びかけている。	避難訓練の見学など、地域の方が参加しやすい方法を提案しながら、協力体制が構築できるよう関係性を深めていくことが望まれる。
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	災害にたいする講習会や非難訓練などを定期的に行なっております。また災害が発生した場合の対応マニュアルも作成しております。 防災の備品は必要と思われるものを順番に用意している状況です。	感染対策用の備品は、多めに揃えられている。避難訓練は年2回、うち1回は通報訓練も行い、マニュアルの見直しも行われている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内の年間研修に組み込み全職員対象として、外部講師や内部講師による講義を設定しています。	年2回研修をされている。ご本人の希望の名前の呼び方などがあるが、尊厳を忘れずに対応しよう心がけている。職員の言葉で語尾が強い言い方になっていることが多く、その都度注意されている。トイレの戸が少し開いたままになっていたり、大きな声で排泄の声かけを行ったり、部屋を開け放しにしたりという事が以前はよく見られたが、その都度注意しており改善されてきている。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様自身の思いを尊重するために自身で選択できる事は自身で選択できるように支援を行っております。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望がある方は危険のない程度で希望に沿うサービスを提供しております。入浴や食事時間に希望のない方は定時にサービスの提供をしています。ご自分で意思表示ができないかた、危険な場合がある方は本人様の思いを聞ける範囲で尊重したうえで、医療部分を優先した過ごし方をしている方もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後に身だしなみを整えています。ご自分でされる方もいますが、本人様に確認しこちらでさせていただくかたもいらっしゃいます。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや食器洗いができる方には一緒に取り組んでいただいております。定期的に普段の食事のメニューと別に季節にあった食材や料理の提供をしています。	決まった方が自分の役割として、準備や後片付けを行ってられる。行事食は、入居者の希望を取り、買い物から始められる。その時は、表情も普段と違い、大変喜ばれている。入居者みんなが参加できるよう、やりたいところ、できるところを分担して楽しんで行われている。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者様に合わせて食事の形態を変更し安全においしく食べていただけるように支援しています。また脱水にならないように1日の水分摂取量を把握し、飲みすぎや少なすぎる事がないように支援しています。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方には食事後と起床時に各入居者様に合わせた口腔ケアを行っており、介助の必要がない方には声かけによる支援を行っています。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時及びその都度必要時に紙おむつを使用している方も日中はなるべくトイレで排泄できるように声や本人様確認のうえでトイレ誘導を行っています。また自立している方も失敗がないか見守りをさせていただき、日頃から状態確認を行っております。	全体の9割の方が、日中はトイレを使用されている。個人の排泄リズムを把握し、個々に声かけするよう努めている。夜間は、本人了承のもと、半分の方が紙パンツ・オムツを使用されている。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便確認をおこなっており自力で便がでず、便秘症状がみられた場合は看護師や医師に相談し個々に応じた対応を行っております。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく本人様の希望にそった時間に入浴して頂けるように支援はしていますが、一人でご入浴困難な方は難しい時間帯の場合入浴時間を変更させていただいております。	本人の希望に添えるように入りたいときに入れるよう支援されている。自立の方でも必ず見守りが行われている。入浴されたくない方については、家族の方から声かけをさせていただいて対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には本人様のすこしやすいようにして頂いていますが、昼夜逆転されているかたは声かけし家族様本人様への説明後になるべく日中に起床をうながし夜間に入眠して頂けるように支援をしています。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は完全に嚥下するまで確認しております。誤薬がないように職員で2重にチェックを行っております。新しい薬が処方された場合は職員間での情報共有をしっかりと行い副作用や症状の変化に注意しております。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしています	食器洗いや、洗濯物たたみなど各入居者様で出来る能力をいかしていただき取り組んでいただいております。その他やりたい事、興味のある事などの要望を定期的に聞く機会を作り支援できるように努めています。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	あまり外出を好まない方が多くいらっしゃいますが、定期的に花見やドライブなど本人様の意思確認のもと外出できる機会を作り無理なく楽しめる程度で支援しています。	春・秋の外出が多い。同じ行き先を希望される方を集め、一緒に出かけることが多い。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金をご本人で管理することや使用することが出来る方がすくなくほとんどの方が施設預かり及び家族様管理となっています。ごく一部支援があれば使用及び管理できる方がいますので、可能な方のみ支援を行っております。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は使用可能となっておりますが、あまり使用していない状況です。使用への要望も今のところありません。ご自分の携帯電話を持たれている方もいるため他者に迷惑がかからない時間や場所で使用できるように支援しています。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では皆様が過ごしやすいように汚れ・臭い・明るさなどに注意し普段から清潔を保つように努めています。	食事のときには、テレビを消し、入居者になじみの音楽を流すなどで生活にメリハリをつけている。共有スペースの掃除は、入居者にも手伝ってもらっている。ご自分の仕事と思っている方もいらっしゃる。トイレ、風呂場と共用スペースが近いので、排泄物の匂いがする時があるが、消臭剤や換気に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファや椅子があり好みの場所を選択し過ごすことができるようになっております。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ペット・冷暖房設備(エアコン)以外のものは入居時に使い慣れたご自宅で使用されていたものを持ってきて頂くか使いやすいもの・こだわりのものを使用できるように支援しています。その他定期的に確認し使いやすいものなど確認しております。	入居時、使い慣れた物を持って来られるよう説明するが、持ち運びしやすいものを新しく購入して来られる方が多い。入居後、必要なものは、ご家族に相談して購入していただいている。こちらで購入する場合は、職員と本人と一緒に見て、本人の希望を確認してから購入されている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能の維持を実施するために各入居者様の状態把握を徹底し出来る事は介助せずに見守りや取り組みやすいように声かけや環境の整備をするように支援しています。		